

# 久留米の自然



全形

上(頭)

久留米の自然126号

2016年1月1日

和種名：オオシロカラカサタケ

学名：Chlorophyllum molybdites

撮影年月日：2015年10月13日

撮影場所：久留米市

撮影者：角 正博

## 持ち込まれたオオシロカラカサタケは、ただいま日本を北上中

角 正博

2015年10月13日に、久留米市都市建設部公園緑化推進課より、キノコについて相談をいただきました。発端は、西鉄久留米駅近くの某銀行前の花壇にキノコが生えてきて、その銀行より久留米市に毒キノコならば放置することもできないので、どう対処すべきだろうかという相談があったことでした。しかし、久留米市も返答に窮して、当会へ相談し、私のところに回ってきたのでした。

持ち込まれた幼菌2個と成菌1個の特徴をまとめると次のようになりました。(1) 傘の裏のヒダはやや密にあり、幼菌では白いヒダが、成菌のヒダになると成熟した胞子の色を反映して淡緑色～オリーブ褐色を帯びていました。これは、他のキノコにないオオシロカラカサタケの大きな特徴でした。さらに発生地について聞き取ると、(2) 発生地の周囲にシイ、カシ、コナラ、マツなどの樹木はなく、これらの樹木と共生する菌根菌である可能性はなきそうでした。(3) 形態的には、柄に膜質の刀の鏢(ツバ)状の「ツバ」を備えていますが、柄の根本は袋状の「ツボ」を欠いています。以上から、ハラタケ科オオシロカラカサタケ *Chlorophyllum* 属に属するキノコであることがわかりました。属名の「Chloro」は「緑色の」、「phyllum」は「ヒダ」を意味

します。属名の基となった本属の代表種であるオオシロカラカサタケの胞子は、成熟すると淡緑色を帯び、その胞子をつけているキノコのヒダも緑色を帯びるという特徴に由来します。さらに、(4) キノコは、やや土臭い匂いを発し、幼菌は淡褐色～黄褐色の表皮に覆われていますが、成菌となるにしたがって傘の中央部を除く周辺部の表皮は裂けて、鱗片となって放射状に点在し、裂け目の下から白い地肌が表れています。傘の直径は10cm前後と大型で、本属の中で傘の直径が8cm～15cm程度の大型菌となるオオシロカラカサタケの特徴に合致します。(5) 太い柄は汚白色～灰褐色を帯び、上部には大きなリング状のツバがあります。根元は次第に太くなっています。したがって、オオシロカラカサタケ *Chlorophyllum molybdites* と同定できます。もともと、熱帯～亜熱帯に広く分布するキノコですが、地球温暖化に伴って日本を北上しているといわれています。山地より公園の植え込み、道路脇、人家の庭など、さりげなく身近な市街地周辺に発生します。食べると強烈な下痢、嘔吐、腹痛などの激しい消化器系の中毒症状で脱水症状となり、加えて悪寒、頭痛、痙攣などの症状を引き起こすといわれている毒キノコです。

## 久留米市の蝶 53

### スジグロシロチョウ 国分謙一

春、2月下旬から3月上旬にかけて暖かい日が数日続いた時に、市街地近郊の筑後川等の河川敷や平地の畑の周辺を散策すると、白いモンシロチョウがひらひらと飛び回っている姿を見ることができます。スジグロシロチョウは3月中旬から出現しますが、このような場所では同時に飛んでいません。スジグロシロチョウを見るには、高良山や高良台の谷間のように、近くに雑木林がある付近に行かなければなりません。

和名は「条(すじ)が黒いシロチョウ」で翅脈(しみゃく)の部分が黒いスジ状になっているので名付けられました。

屋久島から北海道まで広く生息し、北の産地の方が白っぽくなっています。国外では朝鮮半島からインド北部までいるそうです。

季節変異があり3月~4月末は春型、5月中旬から10月中旬は夏型と言われています。

表面はモンシロチョウに似ています。雌は表面にも黒いスジがあるので簡単に区別できますが、3月~4月末に出現する雄は裏面に黒いスジがはっきり表れることで、夏は薄くなりますが、表も裏もモンシロチョウよりスジが黒いので区別できます。

### 専門家でも間違える

そっくりなエゾスジグロシロチョウやヤマトスジグロシロチョウと区別するのは、日本の蝶の中でも難しい種類の一つです。

野外の観察では区別できないので、捕えて調べなければなりません、それでも区別ができにくく、記録発表の後で間違っていたので訂正するとの記事があります。

※ ヤマトスジグロシロチョウは近年エゾスジグロシロチョウから別種として区別されましたが、同種のままとする2つの説があります。今後の研究の進展で決まって行くことでしょう。

### 宅地の安定(住宅の老朽?)か?

国分町の自宅周辺では、50年以上前の小・中学生の頃は見たことがなく、野中町の正源寺(競輪場)周辺では少ないが見る事ができました。当時は山間以外では珍しかったからか、野中町の平地の中にある、古い屋敷の庭で雌を採集したことが記憶に残っています。今は自宅周辺では珍しくありませんし、東京でも住宅地で増加したとの古い報告があります。この報告では、庭の樹木が大きくなり生息に適した環境になったのではと考察されています。国分町も宅地化が早く行われたことから、生息に適した環境になったのではないかと思われます。

### 久留米市での観察

久留米市では3月中旬から10月まで見られますが、飛んでいる時はモンシロチョウにそっくりで、花に止まった時に裏面の模様が違うことで区別します。モンシロチョウは周辺に何も無い田畑の中でも飛んでいます、スジグロシロチョウは都市部では雑木林の周辺で、高良台などの丘陵地では林に沿ったところで見られます。観察するには5月中旬から現れる夏型がよく、高良山や耳納連山の、やや狭くなった谷川や森の中の空き地で見ると白い蝶はスジグロシロチョウでモンシロチョウはほとんどいません、幼虫の食草の違いで生息環境の違いがあるのかも知れません。

久留米市の山間部ではエゾ(ヤマト)スジグロシロチョウも生息していますが、限られた地点だけで、その他のほとんどはスジグロシロチョウです。ですから間違えることはないと思います。

## 高良川流域のキノコ (その28)

角 正博

今回は、旧分類では多孔菌科オシロイタケ属 *Oligoporus* とされていたアオゾメタケです。現在はツガサルノコシカケ科オオオシロイタケ属 *Postia* となっているようです。

48. アオゾメタケ (青染茸) *Postia caesia*

旧分類では、タコウキン (多孔菌) 科オシロイタケ属とされ、*Oligoporus caesius* と呼ばれていました。傘は半円形、幅3~5cm程度、厚さ1~2cm程度で、若いうちは白色ですが、成菌になるにつれ次第に青味を帯びてきます。これは胞子の色で、幼菌では白かった胞子が成熟するにつれ、青藍色を帯びてくるためです。アオゾメタケの和名の由来もこの青藍色の胞子が成熟していく点にあります。さらに老菌となるにつれ表面は汚れた黄色~灰青褐色を帯びてきます。傘の表面は長くはありませんが、密毛に覆われます。肉は、生時は柔軟性がありますが、乾燥すると柔らかいコルク質となります。高良山から明星山では、10月中旬~翌4月下旬頃までの、冬季に見られます。普通、谷側のやや陰湿なスギなどに時々見られますが、時には立ち枯れた広葉樹と思われる木に見られることもあります。高良山には、スギの落枝にオシロイタケに似たキノコが発生します。白色~淡い灰青色で、肉は生時は柔らかく、乾燥すると柔らかいコルク質となり、アオゾメタケにもやや似ています。しかし、アオゾメタケのように、短い密毛に覆われることはなく平滑である点が異なります。



アオゾメタケ

## 生き物に魅せられて 64

オオスズメバチの巻 松永紀代子

2013年の11月中旬、雨が上がりの日差しが暖かかった。筑紫野市原田の公園の林庄にはミソサザイ、林の上ではヒヨドリがけたたましい。

竹林のそばの3m程の崖下で、アリが動くのを見ていたら、ブ〜んと大きな羽音が近寄ってきた。「あっ、スズメバチ」っと少し後にさがあった。

見上げると、20匹ほどが盛んに飛び回っている。崖の地中に巣があったようだ。おっと、そばのネザサの葉にも何匹も止まっていた。少し離れて観察することにした。

外にいたハチは、巣から新たに出てきたハチを追いかけたり、落ち葉の間に潜ったり。時折バチバチと羽音がする。お見合いのように向かいあって飛び、茂みに消えたり。これは彼らの結婚式に違いない。待機しているのは雄バチなのだろう。

ああ、落ち葉の上で交尾をしているものがある。そのカップルの新女王を横から奪おうとしているものもいる。上空で絡んだ2匹はもつれたまま落下。大きな方がさっさと飛び去ってしまった。残されたハチはしばらく休んでいたが、また、相手を探しに参戦した。

一旦観察をやめ、公園を一回りして戻ったら14時近くになっていた。彼らの巣のそばでは、待機している雄バチの数がぐっと減っていた。この日の彼らの結婚式はほぼ終わったようだ。

そのかわり、巣から直接上空に行き、同じ方向に飛び去るもの、また上空に飛来し、巣に帰ってくるものもいた。これは普通の働き蜂の餌集めの行動と思われる。観察したものを調べてみたら、オオスズメバチに当てはまった。雄バチは針はないし、新女王も越冬を控えて温和しいらしいが、まだまだ働き蜂のいる巣、やはり恐ろしい。



オオスズメバチ

## 中野昭剛氏を偲んで

大木武彦



故中野昭剛氏

当会会員の中野昭剛氏が10月24日に亡くなったとの電話が友人からあり大変驚きました。中野氏と私は小学校・中学校の同級生でした。昭和28年から31年の小6から中3までの4年間は一緒に昆虫採集に没頭しました。久留米競輪場周辺の林、篠山城址、高良山などにはよく行ったものです。この頃の夏休みの自由課題では男子は昆虫採集、女子は植物採集をする人が必ずいました。旭屋デパートである作品展に選抜出品されるのが生徒たちの誇りでした。高校生になると彼は山岳部に入り登山を学び、生涯の趣味として亡くなる前まで日本中の山に登っていました。これらを通して彼は自然を愛し、自然を守る気持ちを強めていったのだと思います。社会人としては家人がやっていた小さな名刺、はがき印刷の店を、苦勞を重ねながら夫婦で現在の大きさにまでされました。後継者のご子息に経営を任せて、そろそろゆっくりしようと言っていた矢先の突然の旅立ちとなりました。久留米の自然を守る会の行事にいつも出席され、燃料器具の準備、道具の運搬、受付係、会報印刷など裏方を気持ちよくやって頂きました。心からご冥福をお祈りします。

## ひととき

## 動物笑い話

## その70

## マレーバグ

## 米田 豊

動物園でマレーバグを観た2人の会話。「実に奇怪な動物だね。黒と白の目立つ体色に、ゾウの鼻のような口吻、ブタのような体型なのにほっそりした肢」「それにサイのように立った耳と小さな目、カバのような短い尾」「シカ科の四不像みたいな摩訶不思議な動物だよ」。案内パネルを読んで、「へえ〜、3千万年近く、体のつくりが変わっていないため、生きた化石と言われているとか」「君のような存在だね」「それは進化していないということ?」「いや、貴重な存在だという意味だよ」。言われた友はその真意が読み取れず、漠然となりながら、自分の体型を見回した。

\*バグはウマ目(奇蹄目)に属し、後肢は指が3本、前肢にはもう1本指がある。水辺に近い森林内で過ごし、水中生活にも適応している。世界には4種いて、3種は中南米に生息するが、本種は東南アジアに分布し、体長が1.5~2.5m、体重が250~540kgで最大種。

## 第55回昆虫慰霊祭 橋田沙弓

2015年10月25日(日)10時から11時まで、高良大社境内で行われました。昆虫研究会よりその時の集合写真が送られてきましたので紹介します。当会にご案内があり参加しました。



第55回昆虫慰霊祭 2015年10月25日 久留米昆虫研究会 高良大社・昆虫塔前

昆虫慰霊祭での集合写真

## 例会報告

## 第422回例会

筑後川観月会

大木武彦

平成27年9月18日(金)、くろめウスで当会と筑後川まると博物館との共催で恒例の観月会が開催されました。参加者40余名の盛会でした。絶好の晴天夜空の下、吉田哲磨さんの天体の話、星座の話に続き、天体望遠鏡で土星と月のリアルな姿を観ることが出来ました。くっきりと見えた土星のリングと月面のクレーターに参加者から歓声があがりました。田島清治さんの篠笛の披露、語りべの上野美智子さんと西山芳枝さんお二人の月にまつわる民話もありました。別室ではお菓子とお抹茶をいただき、最後に集合写真を撮って終了しました。思い出に残る初秋の一夜でした。



筑後川観月会の集合写真です。



玄関前で天体観測です。



語り部のお話しを聞きました。

## 参加者の感想文

合川町 森田泰代

今回初めて参加しました。お話をきいて天体に興味がわきました。ありがとうございました。

三井郡大刀洗町 実藤勝枝

初めて観月会に参加しました。月がきれいに見えてうれしかったです。昔話をかたりべの方がして下さったのもとってもうれしかったです。もっと多くの方が(親子連れで)参加されるといいと思います。(防災教室とかあっているのも初めて知りました。回りの方に教えたいと思います。)

諏訪野町 田中礼子

生まれて初めて土星や月を見ました。月はデコボコしていると聞いていましたが本当だったのでとても感動しました。土星も神秘的でした。宇宙を身近に感じ、地球というひとつの星に生まれた自分を不思議な感覚で感じることができました。お茶・お菓子もありがとうございました。



**諏訪野町 野田敦子**

月を観、星を観、語りや篠笛の音を聴き、おいしいお茶をいただきとフルコースの楽しい観月会でした。

**御井町 山口万奈**

今夜は三日月でしたが、望遠鏡では月の欠けた部分まで見る事が出来、却って満月を見るよりも興味深かったです。更に、月だけでなく土星の輪まで見せて頂き遠い宇宙の世界を感じました。また、月に関する物語や篠笛も聞かせて頂き、とても趣深かったです。有難う御座いました。

**御井町 山口みほ**

月にまつわる物語が興味深かったです。篠笛の音色も凛として素敵でした。望遠鏡で見た土星や月のクレーターがとてもくっきりして驚きました。お茶とお菓子もとてもおいしかったです。星のお話やスライドも大変面白く資料を頂いたので参考にして家でも星や月を眺めてみようと思います。楽しくてためになるひとときを、どうも有難うございました。

**三井郡大刀洗町 安達美津子**

月に関する昔話、はじめて目の前で聞く篠笛、土星と月の観察、そしてお茶と趣あふれる2時間でした。秋の花をかざる演出もあって、すばらしいと思いました。自宅ではなかなか味わえないことばかりでとてもたのしくすごしました。ありがとうございました。

**東合川町 田中千津子**

今日は、本当にありがとうございます。天体が大好きで、よく星をながめては、思いをはせていま

す。満月の夜は月の灯りに照らされて満月の夜を楽しんでいます。又来年もぜひ参加させて下さい。PS土星・月・とてもキレイでした。

**小森野町 さいしよつむぎ**

たのしかった。子供と一緒に参加させて頂きました。初めて望遠鏡をのぞき、感激しておりました。素敵な体験をありがとうございました。

**東櫛原町 井手三枝子**

語りべの話しも楽しかったし、篠笛も楽しく歌いました。お星様・お月様もとっておきれいでクレータまで見えて感動しました。お茶もおいしかったです。お花もよかったです。お星様の話しも興味深かったです。

**西町 上野實知子**

今日は六日月でした。でも吉田先生が満月よりもきれいですヨと言われた通り、月のクレーターもはっきりと見え、今まで見た月の中で一番美しかったです。

**北野町 宮本洋子**

語りべの方お二人の話に引き込まれ、しの笛にも引き込まれました。素晴らしいできでよいしれました。又、土星と月も見ることができ、特に月の表面のでこぼこまで見れて感げきでした。お抹茶もお菓子もおいしかったです。お花も素晴らしかったです。

**北野町 日吉紀子**

語りべのお二人のうまいことびっくりしました！大きな望遠鏡を持って来て頂き珍しい土星のワッ

カを見せて頂きありがとうございました。お茶も美味しかったです。

#### 北野町 高橋典子

感情のこもった語りべのお話しに楽しく聞かせていただきました。土星、お月さまとしっかり見せてもらって楽しいひとときを過ごす事が出来ました。笛もすばらしかったです。

#### 御井町 山口洋

星野村等でも星を見たりした事がありますがその時に較べ今日はとてもきれいに土星、月を見ることができました。篠笛や語りべのお話しなどもあり、盛りだくさんの内容でたいへん楽しい一時を過ごさせていただきました。おてまえもおいしかったです。ありがとうございました。

#### 高良内町 秋満陽子

お話しも天体観測もとても良かったです。息子も月と土星を初めて見て感動していました。お茶もお菓子も美味しかったです。

#### 高良内町 あきみつぶんしろう

たのしかった。



### 第423回例会

#### ネイチャーゲームと自然観察会

#### 橋田沙弓

平成27年10月18日(日)、当会とくるめネイチャーゲームの会と四季の森ふれあい教室開催委員会と共催で、ネイチャーゲームと昆虫と植物の自然観察会が開催されました。

参加者17名、その中で子どもは6名でした。秋晴れの下、高良内幼稚園駐車場に集まりました。昆虫観察に講師杉本千穂さんを迎えて、昆虫と植物の観察をしながら、ネイチャーゲームでは「フィールドビンゴ」を行いつつ、後谷コースを頭には白のヘルメットを被って、登って行きました。当会としては「どんぐり検索表とこれは何の木のどんぐり？」というプリントを用意しました。というのは、登り口から、アラカシ、シリブカガシ、ウラジロガシ、クヌギ、コナラ、アカガシの順でドングリを拾って行きました。しょうぶ池の横を通過して森林公園に到着。昼食後、ネイチャーゲームは「森の美術館」をあづまや周辺で行いました。その後、集合写真を取り、後谷コースへ降りて行きました。しょうぶ池の手前でカツラの木の落葉を集めました。というのは、カツラの木の落葉はショートケーキのような甘い匂いがするので、ビニールの袋に落葉を集めました。しょうぶ池の横で、「色いくつ、音いくつ」のゲームを行いました。子どもの感覚は鋭感に秋の気配をとらえていました。駐車場まで下りてきて、解散しました。子ども達は最後まで元気一杯で、昆虫で分からないものを見つけては杉本講師に熱心に聞いていました。

杉本講師から10月18日に見つけた虫のリストがメールで送られてきました。次の通りです。ツチイナゴ、マユタテアカネ、クダマキ、ヒナカマキリ、ハラビロカマキリ、センチコガネ(たくさん飛んでいました)、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、ヨコバイ、タテハモドキ、ヒメフンバエ、ヨコヅナサシガメ(幼虫)の14種。どうも有難うございました。



参加者全員で集合写真を撮りました。

## 参加者の感想文

### 森山たかひさ

むしをとるのがおもしろかったです。

### ふくながゆりか

楽しかった！！また参加したいです。

### 高良内町 橋村佐智子

虫や植物をたくさん見て、子供も楽しそうでした。久しぶりの山登りで疲れましたが、良い運動になりました。

### 篠原町 高橋由美子

森の自然を沢山たんのうでき、様々な自然をしました。子どもにとってもいい経験になりました。少しハードだったけれど、とてもたのしかったみたいで良かったです。ありがとうございました。

### 高良内町 福永恵梨香

初めて参加しましたが、自然にふれ、木の実や葉っぱの種類など教えていただきとてもためになりました。又、子供たちも楽しみながら参加できとてもいい記念になったと思いました。次回も参加したいと思いました！！

## 高良川流域の地衣類（その16）

角 正博

### 8. コフキカラタチゴケ（粉吹枳殻苔）

#### *Ramalina peruviana*

高良川流域からは少しはありますが、高良山の北谷には、カラタチゴケ科カラタチゴケ属コフキカラタチゴケ（粉吹枳殻苔）*Ramalina peruviana* が生育しています。個体数は少ないですが見事です。地衣体は小さな個体では直立～斜上、よく発達したものは3～5cmになり、着生基物から垂れ下がります。細長い樹枝状の灰白色～淡緑色の裂片に枝分かれし、分枝の幅は大きくても3mmを超えず細くてやや扁平、成長すると裂片の縁にやがて粉芽塊をあちらこちらにつけます。カラタチゴケ属の共生藻は、山地のガードレールなどでよく見られる気生藻のトレボクシアと言われています。筑後地方の低地～低山地では、同じカラタチゴケ属のイワカラタチゴケと比べてよく見かけるので、イワカラタチゴケより大気汚染などにやや耐性があるのではないかと推測されます。久留米市内では、高良山以外に耳納山地北麓の社寺の鳥居や石造物、樹幹、民家の石垣などに見られます。

イワカラタチゴケ（岩枳殻苔）*Ramalina yasudae* は、久留米市内では現在のところ、耳納山地北麓の小堂の石造物と人家の石垣に着生しています。地衣体は、灰白色で長さ3cm程度、樹状で分枝は扁平で幅は5mm程度になることもあります。分枝の先に粉芽塊をつけます。今回で、ひとまず高良川流域の樹状地衣を終わります





コフキカラタチゴケ

### 第34回緑のハイキング

橋田沙弓

11月23日(祭日・月)に久留米みどりの市民会議と久留米市主催の第34回くめ緑の祭典・緑のハイキングが朝9時御井小学校の運動場で開催されました。当会は当初から参加34回めです。というのは、冊子「みんなで歩こう・・・耳納連山、自然観察と歴史探訪のための自然歩道ガイド」が昭和57年に当会も執筆に参加し、久留米市と久留米観光コンベンション協会から発行されたのがきっかけで34年前にスタートしたのです。現在は三訂版です。

そのルートは御井小学校→高良大社→北回り遊歩道→森林公園→耳納スカイラインと左右の山道を通りながら→兜山キャンプ場・けしけし山(昼食)→柳坂への山道→永勝寺下迄の道のりです。皆さん元気に子どもから老人まで歩き通すのです。最初から雨で傘をさしての登山時もありました。始めの頃は自然歩道ガイドが受付にあり、市民の方が買い求められ、久留米の書店でベストセラーになったときもありました。当時柳坂への山道は石がごろごろで歩きにくい所がありました。そこ

で、終点からアスファルト道路にかわりました。また、終点の柳坂では、県天然記念物の榎曾根のハゼ並木があり、青木繁の歌碑がある真っ赤な榎が私たちを迎えてくれました。しかし、ハゼ並木の紅葉がハゼの実が多い木に変わってきました。地球の温暖化が進んだ結果です。柳坂ハゼまつりも続いてはいますが、昔ほど盛況はありません。ハゼ並木の起点に当会会員の香月徳男氏の自宅がありますが、今は誰も住んでおられません。

当会は昼食後、植物の説明をしていましたが、今は植物と昆虫の説明を継続しています。植物は角正博先生の地衣類、きのこの写真も展示しています。(※高良山の自然の素晴らしさを紹介)

34回めは初めて「身近な植物」ボランティア養成講座の小西なおみさんも初参加で説明されました。(※去年は小寺林道の植物を紹介)久留米市では11月21日にオルレも実施され、これから、高良山は生きた博物館として、ますます目が離せない自然探索ルートとして発展していく上で、私たちも自然探索の魅力を発信し続けていきたいと考えています。



軽トラックの上で植物の説明をしました。

## 《行事案内》

## ◇ 第425回例会：

## 総会と環境講演会と新年会

平成28年度総会と環境講演会を行います。環境講演会は福岡生物産業開発研究所の田中研実氏です。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：2月7日（日）雨天決行

〔会 場〕：筑後川防災施設くるめウス

〔内 容〕：13：30 総会 14：30 講演会

テーマ「久留米の未来、そして世界の未来」

〔参加費〕：無料 定員50名

〔持参するもの〕：筆記用具

\*講演会終了後、新年会（17：00～19：00 会場未定）を行います。事前に申し込みをお願いします。

## ◇ 第426回例会：

## 筑後川・春の野草を愉しむ会

春の食べられる野草観察会と野草・葉草の調理をして、春の野草を味わいます。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：3月27日（日）雨天中止

〔集合・解散場所〕：筑後川防災施設くるめウス

〔集合・解散時間〕：9：00 14：30

〔参加費〕：400円 定員50名

〔持ち物〕：マイはし、マイ皿、マイカップ、水筒、帽子、筆記用具

〔共催〕：筑後川まるごと博物館実行委員会

## ◇ 「身近な植物」ボランティア養成講座

誰でも自由に参加できます。事前に申し込みをお願いします。無料です。雨天中止

実施日 1月30日、2月27日、3月26日、4月30日、5月21日

〔集合場所〕：山川町王子宮駐車場

〔集合・解散時間〕：9：30 12：00

\*ただし3月26日は9：30山本町柳坂バス停前集合、昼食後、解散は終わりしだいくるめウス前で。

## 《事務局だより》

先日めずらしい光景を見つけました。丘の上から西の方をみると高いビルがならんで立っています。一つはJR久留米駅前の高いマンションのビル。これはすぐにわかりました。しかし、もう一つはなかなかわかりませんでした。白い建物。なんか本を立たせたような状態。しばらくしてわかりました。前者との位置関係から考えてこれは久留米市役所のビルでした。久留米市役所に沿って真っすぐ東に線を伸ばしたところに私が立っていたようです。それで真横だけが見えたようなのです。こんな光景は初めてみました。高良山の上からでは高すぎるし、平地からだすと低すぎる。ちょうど良い高さにいたようです。そこから見ると久留米の高層ビルがあちこちに見えます。あれは何だとしばし考えるのも楽しいものです。（古賀信夫）

ホームページ <http://kurumenoshizen.net>

## 1. 会員異動

なし

## 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

## 3. 原稿募集

次号127号は平成28年5月1日発行予定です。原稿のめ切は4月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

## 4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）は原則として奇数月第1水曜日の19：30～21：00まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。（平成28年1月13日、3月2日、5月11日）

## 久留米の自然

平成28年1月1日第126号

発行 久留米の自然を守る会

E-mail [hashida@kurumenoshizen.net](mailto:hashida@kurumenoshizen.net)

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 51-7064 FAX 51-7065（古賀）

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408